

就活生は不安が一杯

～ 期待と不安は分かちがたい。期待のない不安はないし、
不安のない期待はない。（ラ・ロシュフコー）～

古川博嗣*

1. はじめに

就職活動は、ほとんどの学生が初めて経験するものである。学生の中には、なかなか就職活動に踏み出せなかったり、就職活動中も様々な不安を抱いたり、また、内定を得ても果たしてこれでいいのかと迷ったりするものである。本稿では、筆者が平成24年4月からこれまでの約4年間、キャリア支援室で出会った様々な学生について、折に触れて感じたことを綴ってみたいと思う。

2. キャリア支援室とは

最初に筆者の所属するキャリア支援室の紹介をしたと思う。キャリア支援室は、学生がいつでも就職相談できるようにとの趣旨から設置され、現在3名の職員（常勤嘱託職員1名、非常勤職員2名）が相談に当たっている。おおよそ100平方メートルの室内には、会社概要、求人票などが綴られた企業ファイルが5年分、約700百冊各系、年度毎に色分けして整理しており、周囲の壁や6面あるホワイトボードには隙間なく求人票や会社説明会の案内が掲示されている。

このほか就職関係の資料を閲覧したり、エントリーシートや履歴書を書いたりするための広い楕円形のテーブルと椅子、常時インターネットに接続しているパソコンが3台ある。企業のホームページを見たり、応募書類を送付する際の添え状（送付状）を作成する際に活用している。

業務の取扱状況を簡単に記すと年間来室学生数はおおよそ延べ2000名、その内、1時間前後かかる就職相談（具体的には、キャリアカウンセリング、エントリーシートや履歴書の添削、面接練習など）が約400件、年間300社程度来校される求人企業の対応を当室と求人該当科の指導員と共に行っている。更に、年間3、4回実施する学内合同企業説明会（1回あたり60数社参加）を開催し、企業と学生のマッチングを図っている。直近の3年間の就職率、求人状況、合同企業説明会の状況は、表1、表2、表3のとおりである。

3. 就活生の不安

冒頭少し触れたように多くの就活生は、就職活動中の様々な場面で、悩み、不安を抱く。主だったものを挙げると、(1) いつから就職活動を始めればいいのか、(2) 何をどのようにすればよいかかわからない。そして、就職活動を始めると、(3) エントリーシートや履歴書がうまく書けない、(4) 面接が不安である、(5)

表1 最近3年間の就職率、就職者数

	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度
専門課程	100% 29名	97.3% 36名	97.6% 41名
応用課程	97.8% 88名	100% 95名	100% 96名

上段・・・就職率 下段・・・就職者数

表2 最近3年間の学内求人状況

	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度
求人企業数	577社	761社	962社
求人件数	665人	836人	1101人

表3 最近3年間の学内合同企業説明会の開催状況

	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度
回数、参加 企業数	2回、90 社	2回、96 社	4回、215 社

不採用が続き自信をなくした、(6) 周りは内定を得ているが自分は得られない。さらに、(7) 内定をもらったが本当にこの会社でいいのか決心がつかないなど悩みは尽きない。

就職活動中は、些細なこと（学生にとっては決して些細ではないが）にも不安に駆られる。例えば、ある女子学生のリクルートスーツについての疑問。大手衣料品チェーン店の店員から、一つボタンのリクルートスーツ上着は良くないと言われ、本当にそうなのか確かめに来た。本人の持っているスーツは、一つボタンなので、不安に思ったのである。一緒にインターネットで調べてみると、この衣料品チェーン店のホームページにはリクルートスーツのモデルとして一つボタンの上着を着た女性が紹介されており、何となく不安が解消したりするなどということがある。

実際の就職相談の場面では、エントリーシートや履歴書の書き方・添削、面接練習といったことに多くの時間が費やされるが、ここでは、主に上記(1)、(2)について記したい。

4. いつから就職活動を始めればよいか

学内では、専門、応用課程1年生を対象に秋から実

* キャリア支援室

実践的なキャリア教育がスタートし、翌年3月に第1回目の学内合同企業説明会を開催する。多くの学生は、この期間に自己分析、筆記試験対策、業界・企業研究をして就職活動の準備をし、その後のエントリー、合同企業説明会、会社説明会参加、エントリーシート・履歴書提出、採用試験と本格的な就職活動に臨むことになる。

しかし、一部の学生はなかなか就職活動を始められない。スタートが遅くなるとどうしても自己分析、企業研究などの準備が不十分となり、志望動機がなかなか書けないといったことにもなる。

2年生の秋口までには、専門課程（の就職希望者）、応用課程の学生の大半は内定を獲得するが、就職希望者全体の1,2割は内定を得られない。内定を得られない学生の特徴としては、(1)そもそも就職活動をしていない、(2)就職活動を始める時期が遅く、そのため受験企業数も少なく、折角の機会を逃している、(3)就職活動を始めたものの不採用が続く、就職活動を中断した、(4)エントリーシートや面接の内容に説得力がなく書類選考、面接が通らない、(5)対人コミュニケーションに問題があるなどの要因が挙げられる。

とりわけ、3月修了間近になっても内定が得られない学生は、一様に就職活動の開始時期が遅く、夏休み前後に内定を獲得する学生と比べて就職活動期間も長くなる傾向にある。

学生たちにはなるべく早く就職活動の準備をするように伝えているが、次に、何時から就職活動を始めれば良いのか考えてみたい。

ここ1,2年大卒採用に関する取り決めが変わり、本校の学生の就職活動についても若干の変化が見られるが、地元の中堅、中小企業からの求人が多く、それらの企業に就職する割合が高い本校では、就職活動の開始時期等にはそれほど大きな影響はないように感じる。

4.1 就職活動の具体例 平均的な学生の就職活動を、1,2具体的に示すと以下のとおりである(表4,表5)。

Y.K君は約4か月就職活動をし、会社説明会6回(同一会社で2回実施あり)、就職試験5社9回受け、その内の1社A社の内定を得て、就職活動を終了した。H.Tさんは約3か月就職活動をし、会社説明会5回、就職試験8社11回、その内の1社H社から内定を得て、就職活動を終了した。

4.2 クラスの中で最も早く就職活動をしたA.A君とクラスの大半が内定を得てから就職活動をしたB.B君 専門課程のA.A君は1年生の秋から就職活動を始め(クラスの中で最も早く就職活動をした)、30社近くの企業に応募したが、なかなか内定を得ることができない。1年以上就職活動が続けた結果、漸く内定を得ることができた。応用課程のB.B君は2年生の冬頃(クラスの大半は内定していた)からキャリア支援室に来るようになったが、最初、将来、何をしたいのかよく分からず、就職活動もどのようにすればよいか分からなかったため、具体的な行動に移ることができなかった。しかし、就職相談を進めるうちに徐々に就職意欲が高まり、修了後も積極的にスタッフが就職支援を続けた結果、修了後1か月後に漸く内定を得ることができた。

A.A君のように早くから就職活動を始めれば、就職活動のための準備期間も十分に確保でき、応募の機会

表4 Y.K君の就職活動
(応用課程、平成27年3月修了)

2/25	A社	会社説明会	5/21	A社	就職試験
4/11	B社	会社説明会	5/22,23,24	E,F,F社	就職試験
4/25	C社	会社説明会	5/31	E社	就職試験
4/26	D社	会社説明会	6/4	F社	就職試験
4/27	E社	就職試験	6/14	D社	会社説明会
5/15	F社	会社説明会	6/22	D社	就職試験
5/16	C社	就職試験			

表5 H.Tさんの就職活動
(応用課程、平成28年3月修了)

4/20	A社	会社説明会	7/24	E,G社	就職試験
5/8	B社	就職試験	7/27	F社	就職試験
5/20	C社	会社説明会	8/25	G社	就職試験
6/4	C社	就職試験	9/7	H社	会社説明会
6/5	D社	会社説明会	9/10	I社	就職試験
6/19	C社	就職試験	9/11	J社	就職試験
6/30	E社	会社説明会	9/18	H,J社	就職試験

も増え、余裕を持って就職活動を進められるが、いつまでも内定が得られなければ、就職活動が長引き、学業にも影響がでて、モチベーションを保ち続けるのは大変である。といって、就職活動の開始が遅くなると折角の応募の機会を逃してしまうことになる。

また、B.B君のように就職活動の開始時期が遅くなると、就職活動のための準備も不十分で、応募の機会も少なく、かえって、就職活動の期間が長引くということになりがちである。

Y.K君やH.Tさんのように平均的な学生の就職活動は、A.A君とB.B君の間、すなわち、専門、応用課程の1年生の1,2月頃から就職活動を始め2年生の夏期休暇前後に終了する(平成27年度は就職・採用活動開始時期の変更の影響で就職活動の開始時期が若干後ろ倒しになった)。就職活動の期間も概ね5,6か月である。

キャリア支援室では、学生が、本格的な就職活動(会社説明会、エントリーシートや履歴書の作成、筆記試験、面接など)に入る前に、各科と協力して、各種就職情報サイトへの登録、就職ガイダンス、模擬能力試験、ジョブカード作成支援を行い、更に、エントリーシートや履歴書の添削、面接練習なども行うが、概ね、専門、応用課程1年の6月頃から就職支援をスタートさせている。キャリア関連の授業なども秋口から本格的に始まる。

5. 就職活動は何をどのようにすればよいか

先にも触れたようにキャリア支援室では、様々な就職支援(SPI対策、模擬能力試験、ジョブカード作成支援、エントリーシートや履歴書の添削、面接練習など)を行っており、就活生はこのような準備をすることはもちろん大切であるが、就職活動の機会に自分を見直したり、様々なひとと話したりして、自分なりに職業に対する考え方を持つことが非常に重要である。

Y.M君は、高校時代、人とのコミュニケーションが苦手だったため、誰とも話ができなかった。大学生になり、なんとかしてコミュニケーション能力を改善したいと思い、アルバイトをすることにした。そのアルバイトというのは、訪問販売である。あえてひととの関わりが必要な訪問販売を選び、1か月10件という目標を掲げ、実行に移した。アルバイトを始めてから10か月後、Y.M君は何事にも前向きで、自分から先に行動することができるようになっていた。就職活動も自信を持って臨むことができ、早々に第一志望の企業に内定を得ることができた。

Y.M君のように早い時期から自分を見つめ直し、弱点を克服するための行動をとることはなかなか真似できることではないが、自分を見つめ直してみることが就職活動にとっては重要である。そして、自分のことを第三者に伝えるということが、就職活動の様々な場面で要求される。エントリーシートや履歴書、面接などでは、それを文章にしたり、言葉で説明したりしなければならない。

エントリーシートや履歴書を添削していて、回数を経るごとに学生たちの表現力が増してくるのを感じる(同一の学生の履歴書を何度も添削することがある)。文章力というのは一朝一夕には身に付かないが、時間をかけて何度も書けば必ず上達するものだというのを多くの学生が立証してくれている。

授業やアルバイトで忙しく、なかなか本を読んだり、新聞を見たりすることのない学生には、朝日新聞の天声人語のような小エッセイ(毎日新聞、読売新聞、産経新聞にも同様な記事があります)を読み、要約することで表現力を高めるようにアドバイスしている。

6. 就職活動で不安に感じたりしたとき

企業の採用選考基準は、学生にとってはわからないため(われわれ就職支援担当者にもよくわからない)、採用試験で不合格となったとしてもなぜ不合格になったのか理由がよく分からない。企業の採用担当者に尋ねても筆記試験の点数がレベルに達しなかったなどの回答が返ってくるだけで真相はよくわからない。企業からの不採用通知が重なるとどうしていいかわからなくなり、就職活動を中断してしまう学生がいる。就職活動は、学校の試験のように授業で習ったことを一生懸命勉強すれば良い点数がとれるというものでもない。就活生は、何に対して一生懸命努力すればいいのかかわからなくなるのである。

しかし、それでも就職活動を続けていると徐々に相手(企業)のことを理解し、最初は棒暗記のようにして応えていた自己PRなども自らの言葉で伝えることができるようになる。そして、自分に合った企業に出会う。内定を得て、就職活動を終える頃には、人間的な成長も感じさせてくれる。

途中で就職活動を中断してしまう(あるいは、就職活動をしない)学生は、折角の成長のチャンスを逃してしまうということになりかねない。

結局は、自分なりに精いっぱい準備をし、活動を継続することでしか不安を払しょくすることは難しいように思う。そして、例え採用試験で不合格になったとしても、その理由を自分なりに推理して、次の機会に活かすということを繰り返していけば、徐々に自信がつき、いつしか不安は消え去り、自分に合った企業を見つけることができるようになるのである。

7. キャリア・カウンセリングについて

キャリア支援室には、人と関わったり、話をしたりするのが不得手な学生、自己肯定感の少ない学生など様々な学生がやって来る。

このような学生には、継続して就職支援を行うことになるが、就職相談の初期段階では、学生自からが発話することは少なく、どのようなことを相談したいのか、主訴を聞き取ることはなかなか難しい。現状を把握したり、問題点を明確にするために、場合によっては質問シートなどを使って相談を進めているが、果たして、本当に学生が訴求したいことなのかどうか、また、“傾聴”できているのかどうかなど反省させられることがある。

また、カウンセリング理論では、カウンセラーがクライアントにアドバイスすることは望ましいこととはされていないが、実行することはなかなか難しいものである。実際の相談現場では、学生の悩みや不安に耳を傾けるだけの十分なスタッフや時間がないためである。学生自らが問題点に気づき、解決策を見出さなければ真の解決策とはならないのは言うまでもないが、学生が問題点に気づくまで待っていることは意外と難しいからである。

ただし、アドバイスをする場合でも、アドバイスはアドバイスをする人の価値観が反映されるものであり、鵜呑みにしないこと、また人によって様々な考え方があるので、いろいろな人と話をし、良い点を吸収し、最後は、自分で結論をだすようにと言い添えている。

8. むすび

就職活動は、ほとんどの学生が初めて経験するものである。就職活動の様々な場面で、不安を抱きながら就職活動していた学生もほとんどが内定を得て大学校を巣立っていく。

不安と期待は分かちがたいものである。ラ・ロシュフコーも言っているように期待のない不安はないし、不安のない期待もない。学生諸君にはぜひ不安を乗り越えてほしいと切に願っている。

最後に、私自身“職業とは何か”について、いろいろと考えさせられた4年間でもあった。そのような機会を与えてくれた学生 みなさんには本当に感謝したいと思う。

Bon voyage! (みなさまの良き人生航海をお祈りしています!)

(2016年06月07日提出)